

〔科目名〕 監査論	〔単位数〕 4単位	〔科目区分〕 専門科目 展開科目
〔担当者〕 紫関 正博 Shiseki Masahiro	〔オフィス・アワー〕 時間: 授業の開始時に提示 場所: 研究室(512)	〔授業の方法〕 講義
〔科目の概要〕 企業外部に情報を提供する側の企業の経営者は、投資家、株主、債権者、地方自治体などの企業の利害関係者に、企業の財務状況や経営状態を報告する。その際、企業は利害関係者に向けて、会計法規や会計基準に基づいて貸借対照表や損益計算書などの財務諸表を作成し、公表する。監査は、企業が作成した財務諸表の適切さを保証する役割を担っている。企業の利害関係者は、監査を介して初めて信頼できる企業の財務諸表を入手することができる。こうした財務諸表を監査対象とする監査(通常、「財務諸表監査」という)は、企業が財務諸表を正しく作成したかをチェックし、さらには、財務諸表を利用する投資家や株主等を保護することによって、証券市場の信頼性を確立する役割を担う社会制度となっている。 監査(または財務諸表監査)制度は、会計の仕組みを通じて企業が公表した財務諸表が適切であるか、あるいは、適法であるかをチェックする社会制度の一構成要素である。しかし、こうした役割を監査が担っているにもかかわらず、なぜ粉飾決算が繰り返されるのかを想起しておく必要がある。その原因の1つは、現代の会計がフェア・バリュー(Fair Value)を導入し、会計に将来という概念が採用されることによって、財務諸表上で将来に関わる会計事象(会計の「用語」と「数値(金額)」)が含まれていることにあるように思われる。確かに、監査を実施することで、企業が会計法規や会計基準に基づいて適切な財務諸表を作成したかをチェックすることができるが、将来に関する会計事象(会計の「用語」と「数値(金額)」)に対してはどのように信用を与えればよいであろうか。現在、こうした問題が監査の領域で生じている。 「監査論」の前半では、主として、日本の監査制度を中心に、監査の意義、財務諸表監査、法定監査制度(会社法監査制度、金融商品取引法監査制度)、監査基準などの各テーマを取り上げる。「監査論」の後半では、監査の実施と報告を中心として、監査とリスク、監査報告書、近年の監査に対する社会的要請に関するテーマを解説する。さらには、四半期レビュー制度、内部統制監査制度、公監査などの現代の監査制度上の諸問題も取り扱う。講義では、会計監査に関する具体的な事例についても取り上げる。		
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・「なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか」 ・他の科目との関連付け 「監査論」は、他の会計科目(会計学基礎論、財務会計論、財務分析Ⅰおよび財務分析Ⅱなど)と密接な関係がある。 ・学ぶ必要性と学ぶことの意義 いまや会計は、ビジネスの言語として、社会人にとって必須の知識となっている。監査についていえば、財務諸表監査の内容を理解することは、企業が公表する財務諸表が社会に果たす役割を再認識する上で有益である。また、主として上場企業に対する内部統制の実施が制度化されて以降、企業と監査の関わりが一層強まっている。このように、近年では特に、監査法人のみならず、財務諸表を作成する側の企業、さらには、財務諸表を学ぶ学生諸君にとっても、監査を十分に理解する必要性が高まっている。		
〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕 (中間目標) 財務諸表監査に関わる諸問題、監査(制度)の意義を学び、あたかも受講者自らが公認会計士の職務に従事しているような意識を持ち、監査(制度)の社会的な役割を考えることにある。 (最終目標) 公認会計士が行う監査プロセスを理解し、財務諸表監査と監査(制度)の意義を習得することにある。		
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 マイクの音量の調節を行い、聞き取りやすく説明するように心掛け、板書の文字の大きさや仕方にも配慮します。また、レジュメについても再度見直し、一層分かりやすくするように努めます。レジュメや授業での説明を通して、要点をしっかりと伝えることを意識して授業を進めたいと考えています。		

[教科書]																
伊豫田隆俊・松本祥尚・林隆敏 著『ベーシック監査論(八訂版)』, 同文館出版, 2020 年。																
[指定図書]																
山浦久司 著『監査論テキスト[第 7 版]』, 中央経済社, 2019 年。																
[参考書]																
長吉眞一・伊藤龍峰・北山久恵・井上善弘・岸牧人・異島須賀子 著『監査論入門(第 4 版)』, 中央経済社, 2019 年。 蟹江章・藤岡英治・高原利栄子 著『わしづかみシリーズ 監査論を学ぶ[第 3 版]』, 税務経理協会, 2020 年。																
[前提科目]																
前提科目はなし。「会計学基礎論」, 「財務会計論」(できれば他の会計科目も)を履修していることが望ましい。																
[学修の課題、評価の方法](テスト、レポート等)																
・複数回(5～10 回程度を予定), 小課題を提出してもらう。期末試験の他に, 授業中に小テストを行う。 <u>小テストの実施日は, 授業内および掲示で伝達するので, 注意すること。</u>																
[評価の基準及びスケール]																
・小課題(10%), 小テスト(30%), 期末試験(60%)によって, 評価する。																
(評価)	<table><tr><td>A: 80%以上</td><td>GPA</td><td>4.00</td></tr><tr><td>B: 70%～80%未満</td><td></td><td>3.00</td></tr><tr><td>C: 60%～70%未満</td><td></td><td>2.00</td></tr><tr><td>D: 50%～60%未満</td><td></td><td>1.00</td></tr><tr><td>F: 50%未満</td><td></td><td>0.00</td></tr></table>	A: 80%以上	GPA	4.00	B: 70%～80%未満		3.00	C: 60%～70%未満		2.00	D: 50%～60%未満		1.00	F: 50%未満		0.00
A: 80%以上	GPA	4.00														
B: 70%～80%未満		3.00														
C: 60%～70%未満		2.00														
D: 50%～60%未満		1.00														
F: 50%未満		0.00														
[教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望]																
・初回の授業の際に, 評価方法などの詳細を説明するので, 必ず出席すること。 ・受講生の学習理解度, 授業の状況などにより, 授業スケジュールに変更が生じる場合もある。 ・「監査論」の講義では, 受講者自らが「公認会計士」の職務を担当しているかのような意識を持って監査(制度)の社会的な役割や機能を学習してもらいたい。 ・考えることと同時に, 覚える事柄も多くあるので, 予習と復習をして授業に臨むこと。予習の際には, 教科書を十分に読み, 授業にしっかり出席すること。 ・他の学生の迷惑になる行為はくれぐれも慎むこと。まず注意をするが, ひどい場合には, 特に厳しく対処する。																
[実務経歴]																
該当なし。																
授業スケジュール																
第 1 回	テーマ(何を学ぶか): 監査とは何か① 内 容: 監査の意義と必要性 教科書 第1章, 講義レジュメ															

第2回	テーマ(何を学ぶか):監査とは何か② 内 容:監査の生成要因と監査の種類 教科書 第1章, 講義レジュメ
第3回	テーマ(何を学ぶか):監査のフレームワーク① 内 容:会計ディスクロージャーと財務諸表監査 教科書 第1章, 講義レジュメ
第4回	テーマ(何を学ぶか):監査のフレームワーク② 内 容:財務諸表監査の特質 教科書 第1章, 講義レジュメ
第5回	テーマ(何を学ぶか):監査のフレームワーク③ 内 容:監査の経済的機能, 市場と組織における監査の役立ち 教科書 第1章, 講義レジュメ
第6回	テーマ(何を学ぶか):監査制度① 内 容:イギリスの監査制度の生成と展開 教科書 第2章, 講義レジュメ
第7回	テーマ(何を学ぶか):監査制度② 内 容:アメリカの監査制度の生成と展開 教科書 第2章, 講義レジュメ
第8回	テーマ(何を学ぶか):監査制度③ 内 容:日本の監査制度の生成と展開 教科書 第2章, 講義レジュメ
第9回	テーマ(何を学ぶか):監査制度④ 内 容:会社法監査制度 教科書 第2章, 講義レジュメ
第10回	テーマ(何を学ぶか):監査制度⑤ 内 容:金融商品取引法監査制度 教科書 第2章, 講義レジュメ
第11回	テーマ(何を学ぶか):監査制度⑥ 内 容:公認会計士法の意義と内容 教科書 第2章, 講義レジュメ
第12回	テーマ(何を学ぶか):監査規範と監査基準① 内 容:監査規範の意義, アメリカの監査基準の生成と展開 教科書 第3章, 講義レジュメ
第13回	テーマ(何を学ぶか):監査規範と監査基準② 内 容:日本の監査基準の生成と展開(1) 教科書 第3章, 講義レジュメ
第14回	テーマ(何を学ぶか):監査規範と監査基準③ 内 容:日本の監査基準の生成と展開(2), 近年の監査基準の改訂 教科書 第3章, 講義レジュメ
第15回	テーマ(何を学ぶか):前半の総復習 内 容:前半の講義内容の総括, 小テストの実施 教科書, 講義レジュメ
第16回	テーマ(何を学ぶか):監査意見形成のプロセス① 内 容:監査プロセス, 財務諸表監査における要証命題, 経営者の主張 教科書 第4章, 講義レジュメ

第 17 回	テーマ(何を学ぶか):監査意見形成のプロセス② 内 容:監査要点, 監査証拠, 監査手続, 試査 教科書 第4章, 講義レジュメ
第 18 回	テーマ(何を学ぶか):監査リスク・アプローチと監査戦略① 内 容:監査リスク・アプローチの意義, 監査リスク, 監査リスクの構成要素 教科書 第5章, 講義レジュメ
第 19 回	テーマ(何を学ぶか):監査リスク・アプローチと監査戦略② 内 容:監査上の重要性, 監査リスク・アプローチの全体像 教科書 第5章, 講義レジュメ
第 20 回	テーマ(何を学ぶか):監査リスク・アプローチと監査戦略③ 内 容:監査戦略と監査計画 教科書 第5章, 講義レジュメ
第 21 回	テーマ(何を学ぶか):リスク評価, リスク対応および監査の完了① 内 容:企業および企業環境の理解, 内部統制 教科書 第6章, 講義レジュメ
第 22 回	テーマ(何を学ぶか):リスク評価, リスク対応および監査の完了② 内 容:重要な虚偽表示のリスク, 不正リスク, 監査手続の完了と監査意見の形成 教科書 第6章, 講義レジュメ
第 23 回	テーマ(何を学ぶか):監査報告書と情報提供機能① 内 容:監査報告書の意義と種類, 監査報告書の構造, 監査意見の移行形態 教科書 第7章, 講義レジュメ
第 24 回	テーマ(何を学ぶか):監査報告書と情報提供機能② 内 容:追記情報, 監査目的と監査対象の多様化 教科書 第7章, 講義レジュメ
第 25 回	テーマ(何を学ぶか):開示情報の多様化と保証機能① 内 容:四半期レビュー制度(1) 教科書 第8章, 講義レジュメ
第 26 回	テーマ(何を学ぶか):開示情報の多様化と保証機能② 内 容:四半期レビュー制度(2) 教科書 第8章, 講義レジュメ
第 27 回	テーマ(何を学ぶか):開示情報の多様化と保証機能③ 内 容:内部統制監査制度 教科書 第8章, 講義レジュメ
第 28 回	テーマ(何を学ぶか):公監査 内 容:会計検査院による監査, 地方自治体監査制度 講義レジュメ
第 29 回	テーマ(何を学ぶか):現代の会計と監査, 会計監査のケース・スタディ 内 容:現代における会計と監査の特徴, 会計監査に関する事例 講義レジュメ
第 30 回	テーマ(何を学ぶか):総復習 内 容:講義内容の総括 教科書, 講義レジュメ
試 験	筆記試験の実施